

※同一科目の昨年度以前の内容です。

授業科目名	防災リテラシー養成講座(災害を知る)A
授業科目名(英字)	Disasters Literacy Education A
時間割	1Q 木曜日 5校時 L-4 1 5 1Q 木曜日 5校時 L-4 2 1 1Q 木曜日 5校時 L-4 2 2
対象年次及び学年	1年次
担当教員	磯打 千雅子 井面 仁志 竹之内 健介 寺尾 徹 野々村 敦子 山中 稔
ナンバリングコード・水準	B2
ナンバリングコード・分野	THM
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー(DP)	ecd
ナンバリングコード・提供部局	G
ナンバリングコード・対象学生	1
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応	N
ナンバリングコード・授業形態	Lx
ナンバリングコード・単位数	1

関連授業科目	防災コンピテンシー養成講座(災害に備える) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習
履修推奨科目	防災リテラシー養成講座(第2クォーター) 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)
学習時間	講義90分×7.5回 + 自学自習(事前15時間, 事後15時間)
授業の概要	本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と活用および災害対応について、香川大学の専門家が講義する。本講義は防災士試験受験にあたっての導入科目の位置づけであり、後期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる(申請料5000円が別途必要)。この科目では、課題探求のプロセスに実践を通じて関与することができます。(D科目) この科目では、リスクにかかわる知識・技能/現代社会におけるリスクについての知識を習得することができます。(R科目)
授業の目的	日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためにはまず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。
到達目標	1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」 「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 本講義を導入科目とし、第2学期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。
成績評価の方法	毎週のレポート(約40%;主に到達目標1・2に該当)と期末試験(約60%;主に到達目標1・2・3に該当)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。
成績評価の基準	成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。

	<p>合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。</p>
授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。</p> <p>【授業計画】 第1週 ガイダンス：地域防災と多様性への配慮 第2週 火山災害 第3週 ライフライン・交通インフラの確保 第4週 土砂災害 第5週 企業団体の事業継続 第6週 気象災害・風水害 第7週 地震・津波による災害 第8週 期末テスト（45分）と避難所の設置と運営協力（45分） なお、講師の都合によって講義の順番が変更になる場合がある。</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災土教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。</p> <p>第1週 防災士の活動や資格の意義、必要性について防災土教本を確認する（4時間） 第2週 防災土教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間） 第3週 防災土教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間） 第4週 防災土教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間） 第5週 防災土教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間） 第6週 防災土教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間） 第7週 防災土教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間） 第8週 防災土教本の該当箇所を確認して事前課題を行う・防災土教本及び各講義の資料を確認する（4時間）</p>
教科書・参考書等	<p>【講義方法】 本講義は教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。</p> <p>教科書：日本防災士機構編集発行「令和7年度防災土教本」（頒布価格：4000円※価格は出版元の都合で変更となる場合もあります） （受講者は必ず購入すること） テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。</p>
オフィスアワー	<p>担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日15：00～16：00）</p>
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	
参照ホームページ	
メールアドレス	isouchi.chikako@kagawa-u.ac.jp
教員の実務経験との関連	<p>防災・危機管理の実務経験を有する担当者がオムニバス形式で講義。</p>
特記事項	<p>障がい等により本授業の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属学部・研究科の学務係（医学部・医学系研究科は学生係）又はバリアフリー支援室に事前に相談してください。</p>